

## < 第 1 回意見交換会 >

### 設計者コメント

小田原市芸術文化創造センター建設工事に入札結果については、私も大変ショックを受けており、また設計者として、建設が遅れることについて申し訳なく思っております。

まず、設計の積算については、国が公共工事で定めた R I B C ( 営繕積算システム ) により適正であったが、建設会社は実勢単価による独自の積算をしており、これが入札結果に現れたと分析しています。

次に、小田原市が示した 4 つの選択肢について、以下に考えを述べます。

「延期」では、市民会館を改修するが、市民会館の改修工事費は、現状維持を想定した市の算定よりも大幅に上回る可能性があること、他市のホールの改修工事では問題が発生し、追加工事が続いていることから、無駄な投資になると考えます。

「事業提案」は、P F I 方式を導入した事例を見ると、採算が合わない文化事業は切り捨てられる傾向が強く、文化施設にはなじまないものであります。

「設計見直し」では、構造計画の見直し、避難・排煙等法的な対応など設計を完全にやり直す必要があり、現実的ではないものです。

「分割工事」は、小ホールを除けば現行予算の約 7 3 億円以内で落札となる可能性は高く、大スタジオや大ホールを小ホールとして快適に利用することも十分可能であります。また、開館の遅れを最短にすることもできます。さらに、将来のランニングコストを考慮すると小ホールが無ければ、負担も軽減できメリットもあります。小ホールの予定地はイベント広場として利用することで、まちの回遊性をさらに高めることができます。また、設計図も出来ているので時代が良くなって市民の方のコンセンサスが得られれば、いつでも建設できますし、その間に違う考え方が出れば、違う機能のもの、例えば展示系、図書館など小田原のニーズに合ったものをその時点で考え、建設しても良いと考えます。私は 3 月の市民説明会において、このことについて提言しています。

私は、設計者に選定されてから今日までの 2 年以上の間、芸術文化創造センターの整備に向けて、市民の皆様と設計に取り組んできました。その皆様の想いを実現するためにも、「分割工事」とすることがベストであると、設計者として考えております。

株式会社新居千秋都市建築設計  
代表取締役 新 居 千 秋